13
2378
191

遺
2378
191

戊戌春

榮久堂梓

各形年新區事彩

上之巻

雪麿作
國貞畫

花ぬ鳴鶯茶の紅裏女中水ゐ住蛙の声師匠さんや為何まち草雙紙を好ざり
りゐ。と古今集の往古より後と見ぬ〻目水晶貫之ぶ筆ゐ違ゆ〻ゐ女中方の合巻
好今見功者ゐ成ゐひく。作者も指と唖烟管。なち消のまく役者ゐ有ゐれ烟草同を
縫ゆうゐ房の結果ゐ成ゐまらゐの斯でも有ん然でもゐと世間男や岡目八目戸ぎゐ御代
ゐ人乃口鬼ようとの画雑坊の師直ゐ洲絵ども用心厳しき机の上欄で仕切てから画て
と画割の魂膽目前の手夫凝て思案の種本も何処ゐ足ゐ假名遣ゐ迷ゐ子ゐ業ゐ不学
の誤ん〻拍子戯踊外し落の来るそれて筆癖ゐ〻文の上下と上冊下冊と捻ても
利目の悪いさ女功験見えゐ扇の骨折一寸先ゐ闇潰の外題も寂早事舊て
流行の白表紙ゐ砂子ゐどゐ栄ゐ出法題案ぐゐ茶筅濁ゐ原ゐ
悪評合點の何でも平ら〻平左衛門相のゐ御慶ゐ上ます。

天保戊戌初春

墨川亭雪麻呂

神野蝶三郎
俳名 白炭忠知

深見
十左衛門
俳名 白休

遍志
勧進

賽

遍

天下泰平國土安穩

經日

南无遍命地藏尊前

海老
名誉
左の上人
右の下人
梶

人形手

天保九戊戌年孟春新稔史

菊寿堂四編盃 全四冊 香蝶楼国貞画
恵孝縁糸錦 五雲亭貞秀画
女達京筆操 全三冊 香蝶楼国貞画
柳蔭古着新店 全四冊 五雲亭貞秀画
霞帯春空解 全四冊 香蝶楼国貞画
豊歳武都英 全四冊 千前輪謂喜作
人形手新圖更紗 全二冊 香蝶楼国貞画
俳優樂屋雑談初編 全四冊 香蝶楼国貞画
美艶山女香 黒油美全香
地本錦繪問屋 栄久堂 芦ノ一町親仁橋角 山本平吉版

人形手新圖更紗

中

芝田河岸
親父橋角
山本平吉版

中之巻

巻中
人物

人形手

上行菩薩
麻

十三談義

つゞき
左の上あとのこまつ
十
かそう

立
下

つくも
人の
左
右
世宗

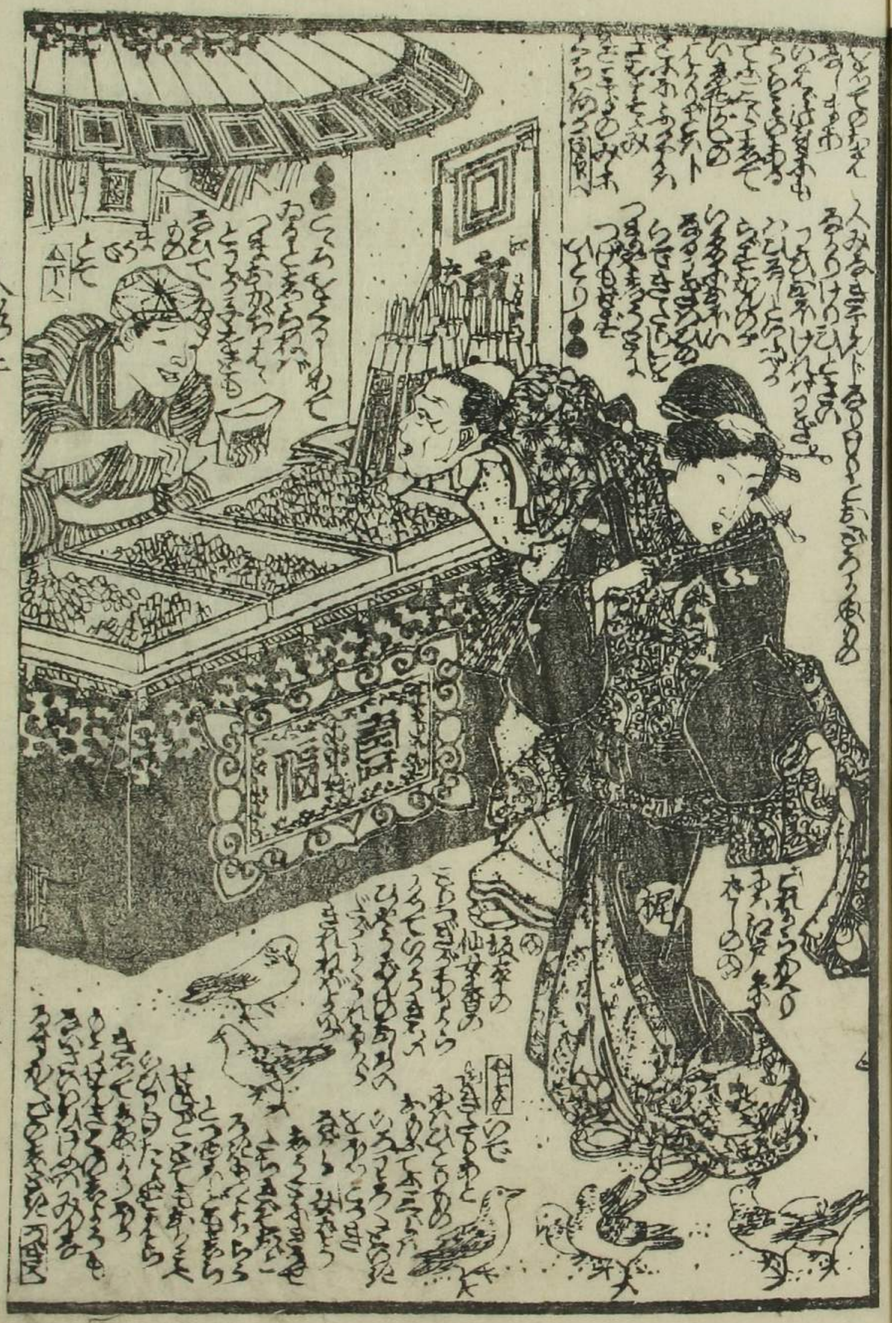
○ひそくふきこむ

○濡衾自弓

○櫨傘雨談

雪信画

右のよそ本十冊



雪月花作
國貞画

國貞画
天保九戊戌春
新版
下

雪麻呂作

不孝者

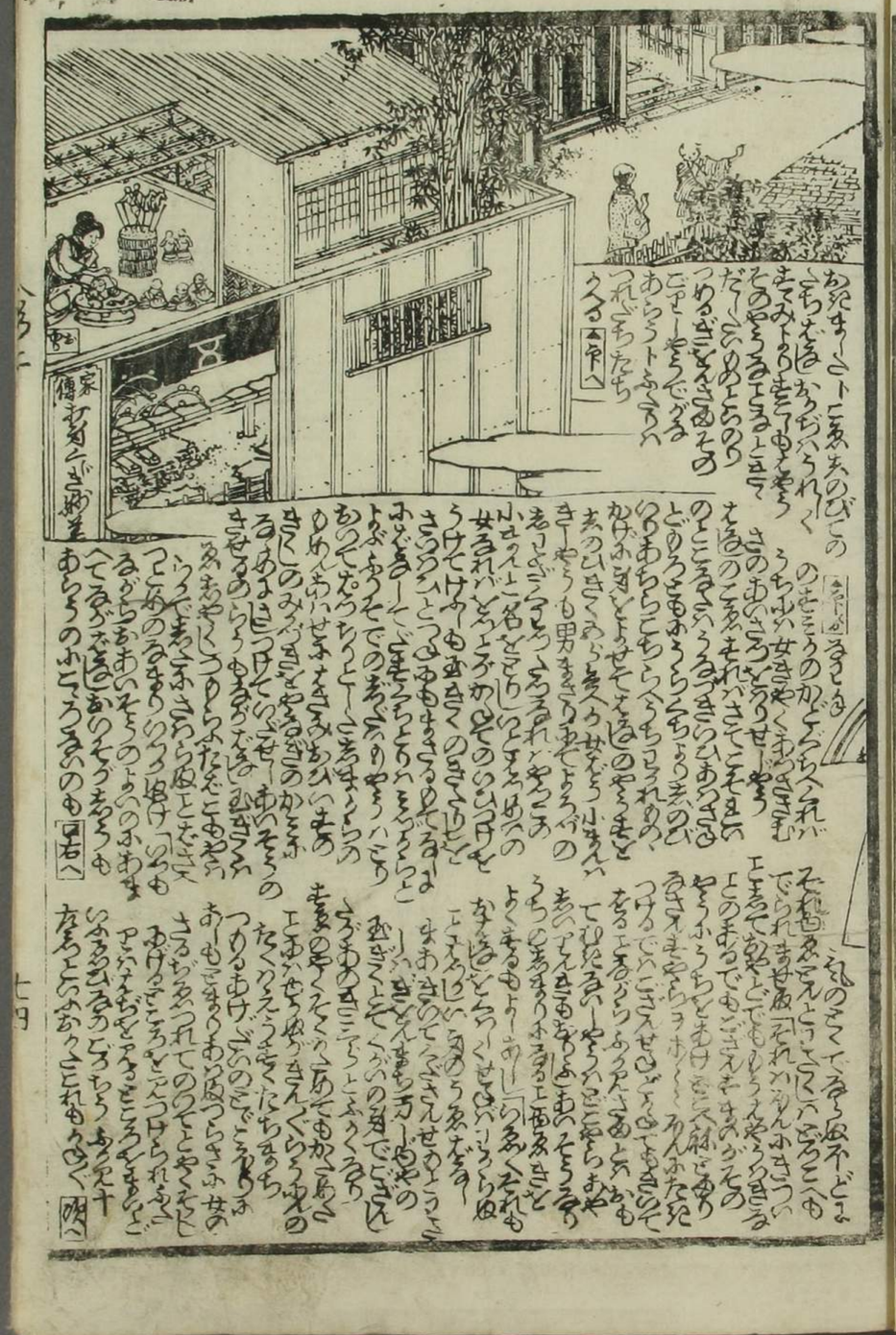
國貞画

参山本町 川幹

初
ヲ
かぞのてん
あくろとみさう
ヲ
ろうかう
ヒ
ヒよ
ろうしう
ヒ
とらノ
ヒザト
さとる
ニ
ろうじひるー
金子あ
ろうめ
ちのつ
ちのかいるとよ
いへ
ア
ねこ
さる
ねこ
ヨリ
あさる
モノ
福ふく
あづうノ
金子あ
ろうめ
ちのつ
ちのかいるとよ
いへ
ア

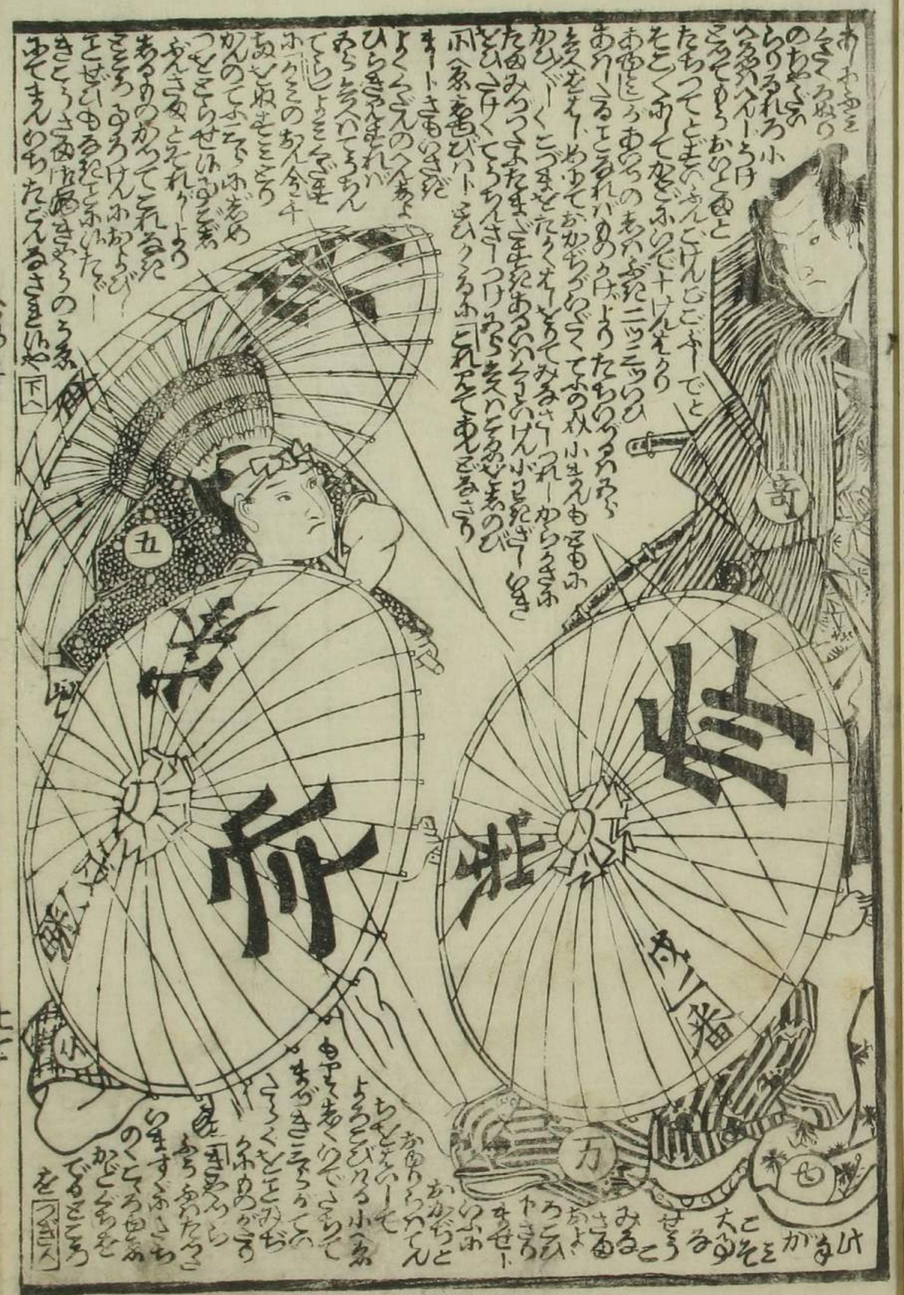
ろ
ろうあづさ
ヨ
ようて
いひとけさく
ち
あく
ひト
ハ
ぬき
タル
ち
ちぎ
ニ
てんじん
てんぐ
ナリ
ア
くまぐ
いのり
かくさとうつ
テ
たまいろ
いへ
たづは
とふ
ナリ
ア
終

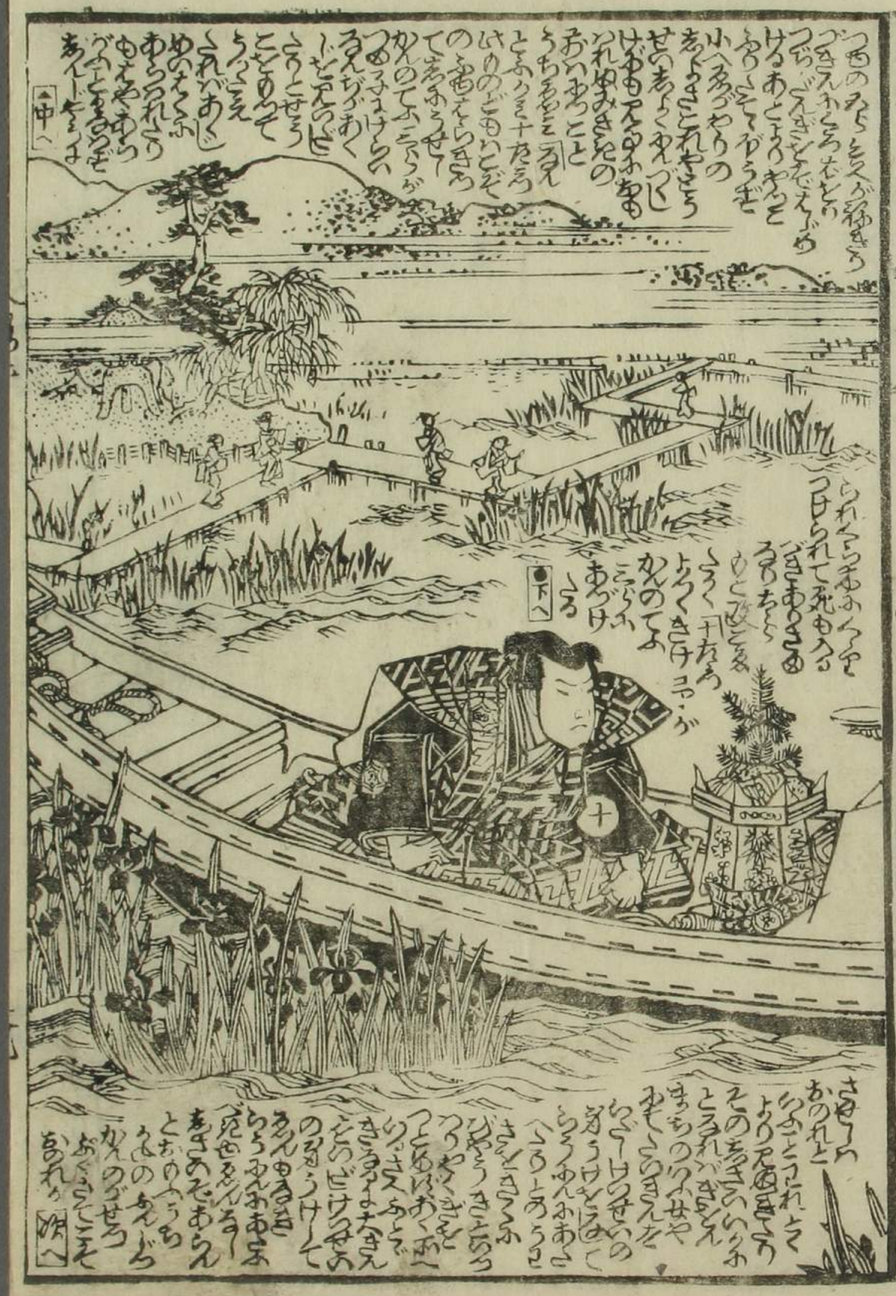
梶の茶や



人形手
奇
小

上方
第一
第二


第三
第四
第五



五
小
梶
十
五

増補忠臣蔵　全六冊　菅木齋主粒編　陽齋前豊國画

繪本千年山　全拾冊　北尾重政画

繪本武者鑑　全六冊　一返舎九作　香蝶樓國貞画

花軍春錦繪　前編六冊　後編四冊　十返舎九作　香蝶樓國貞画

昔舊在多土佐　全四冊　宇田千町選　歌川國芳画

地本錦繪問屋　浅草ゝ町親仁橋角　山本平吉販

禾目蝶樓國貞画　墨川亭雪麿作

奉懸

天保九年正月日

願主　神蝶衣

清書　谷金川

坂本氏精製
美艶仙女香
黒油
美全香